

原発電源地域における文化環境育成に関する研究

岩手大学 正会員 安藤 昭
 岩手大学 正会員 赤谷 隆一
 岩手大学 0 等生員 内藤 敏

1) はじめに

まず、原発電源地域の文化環境育成という研究は新しい地域形成の探求という点でもっとも興味深い。研究対象地域を当電源地域のほぼ中央に位置する福島県双葉郡富岡町とする。電源地域のかかえている問題点の抽出にあたっては、次のような視点から接近する。すなわち、まず電源地域社会育成上の先の社会経済的制約条件の解析をふまへ、本研究では人間居住の総合的環境の評価についての分析を試みるものである。このような研究を推し進めることは、将来の新しい地域社会を創り出していく上で、大きな意義を有するものと考えらる。

2) 調査対象・調査地区及び回答者

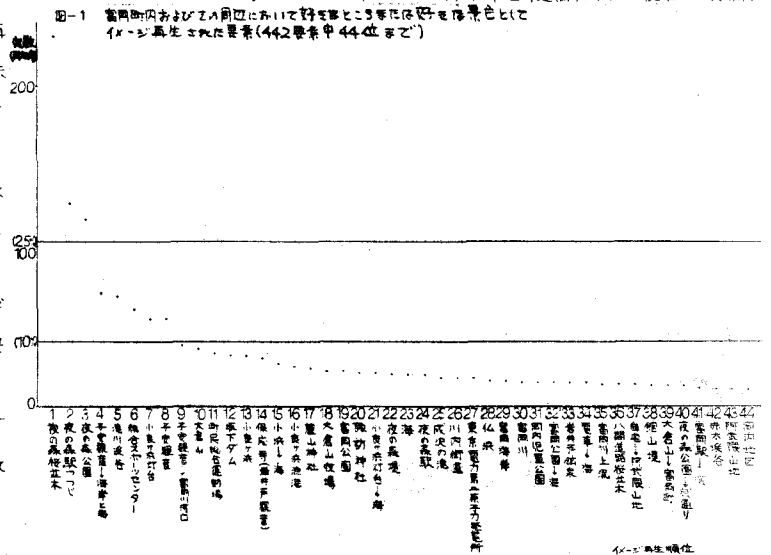
調査対象は、富岡町内及びその周辺の景観であり、調査地域は富岡町全域である。被調査者はランダムサンプリングで選定された富岡町に居住する18才以上の男女609人である。このうち回答者は411人であり回収率は67.5%であった。

3) 調査方法および調査期間

調査方法はイメージ再生法によった。すなわち富岡町の景観に対し、I-の富岡町内および町周辺の景観で好きな「ところ」または「景色」(かゝ見た)は何ですか。②④に述べられた中で最近10年間に悪くなったと言える景観は何ですか。②④に述べられた中で最近10年間で良くなったと言える景観(新しく作られたものも含む)は何ですか。④⑥に述べられた中で最近10年間にあって変わらない景観は何ですか。II. 富岡町内および町周辺の景観で改善してほしい「ところ」または改善してほしい「景色」(かゝ見た)は何ですか。という3つの質問をし、思いつく順序にできるだけたくさん書いてもらったものである。調査期間は昭和59年11月5日～11月10日であり、留置調査法で行った。

4) 分析結果および考察

イメージ再生された景観要素の総数は442個にもおよび、これをイメージ再生率を縦軸に再生順位を横軸にとつてグラフ化した。ここでは再生率がほぼコンスタントな値を示すようにする再生順位で44位までの要素を図-1に示す。さらにこれを両軸とも対数の目盛りで表わすとほぼ直線となり、再生率とその順位の関係は対数曲線を描いて減少しており、共通にイメージされる景観要素は比較的少数の要素に集中していることがわかる。



しかも図-2において知られるように「ところ」「景色」のいずれの場合も再生順位の早いもの程その傾向を示すので、再生率の集中

